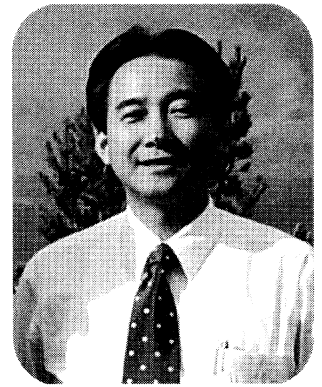


# ノルウェーの テクニカル・エイド・センター

東京都立保健科学大学 作業療法学科 木之瀬 隆

ブレッケストーレンよりフィヨルドを望む▲



木之瀬 隆氏

最近、ノルウェーから高機能な福祉用具が日本へ輸入されるようになった。輸入される福祉用具の種類は少ないが自立的な生活や介助者に配慮された用具が多い。ノルウェーの政策では一九九四年から障害者福祉在宅へ方向転換したことで福祉用具の積極的な導入が進み、福祉用具の供給・開発が飛躍的に進歩した。福祉用具の供給・開発に重要な役割を担うのがテクニカル・エイド・センター (Technical Aid Center: TAC) である。日本の県レベルの福祉機器センターも英訳するとテクニカル・エイド・センターとなるが、役割は機器展示と相談業務のみで、似て非なるものと言える。

今回、ノルウェーのTACを解説し、日本の介護保険福祉用具の供給方法と比較し、今後の対応について述べる。

## ノルウェーの テクニカル・エイド・センター

TACはオスロを含む一九のフィルケ(県)に一つずつ設置されており、社会保険局に属する。

TACの主な機能は①福祉用具の支給・保管・回収・利用者に対する指導、②福祉用具のリサイクルを所管、③OT、PT、エンジニアが在籍(職員三〇〜七〇名)、④利用者福祉用具の選定・適合を支援、⑤コミュニネ(市町村)のOT、PT等の教育等になる(図1)。

ノルウェー大西洋岸にあるオールスンには職員数五〇名のTACがあり、その作業療法士(OT)のヘリガ氏にTACの説明を受けた。ノルウェーの福祉用具供給の流れは、利用者の申請により、福祉用具の対応はコミュニネ窓口のセラピストが行い、一般的な福祉用具はそこで試

すことで用具が決まり、県のTACにオーダーが入り、個人に供給される(図2)。

TACは主に難しいケースの福祉用具の選定・適合に関わっており、シーティング対応や、電動車いす等の改造を個人に合わせてエンジニアと一緒にやっている。TACで難しい特殊な福祉用具や訓練を要するものは国のリハセンターに依頼するシステムになっているが、自動車の運転装置やシートの改造はTACのエンジニアが対応している。

## TACで供給される福祉用具(車いすを例に)

国で決められた福祉用具リスト(ピンクブック)の品目が基本であるが、それ以外の用具も手続きをすれば可能である。車いすを例にとるとオールラウンドタイプといわれるモジュラー車いすが基本で、我々が



図1  
テクニカル・エイド・センターの機能  
①選定・適合 ②倉庫・保管  
③修理・リユース

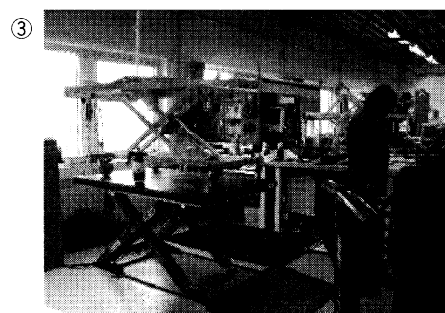
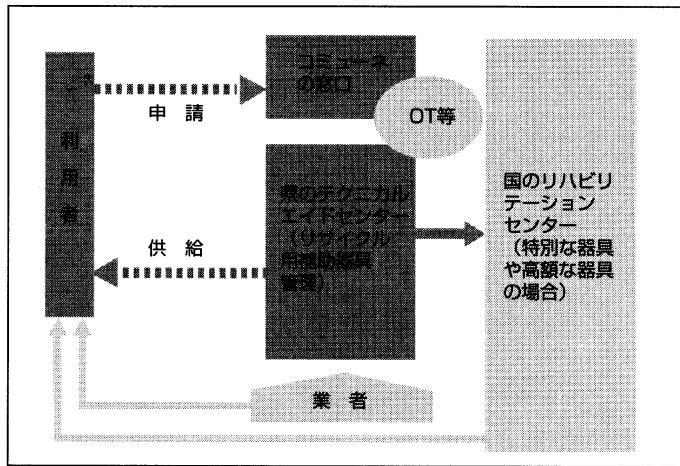


図2：ノルウェーの補助器具供給の流れ



高品位と評価している欧米の車いすはほとんど入っていた。それらは日本での市販価格は一五万円以上のモジュラー車いすであり、日本の介護保険で一般的な安い車いすはまったく見当たらなかった。高品質なモジュラー車いすが供給される理由は二つある。一つはTACの役割として高品位な福祉用具は五〇%以上を目標にリユース（再利用）しており、リユースに耐えうる品質でなければならぬ。もう一つの理由はモジュラー車いすが寸法の調節機能、パー

ツの選択ができ、利用者との適合がその場で行える特徴がある。介護保険にも簡易モジュラー車いすが数種類レンタルされるようになったが、そのような情報提供をする役割は介護保険にはない。TACで供給される福祉用具は自宅で自立的生活に必要なものがほとんどで、子供から高齢者、視覚障害者、就労に必要な用具まで供給される。現在は国の政策のIT関連では障害のある人は情報入手が最も重要であるとして、必要人にはパソコンと入力スイッチを合わせて支給しているが、パソコンは二、三年で新しいものになり、リユースの難しい機器としてTACの彼らも悩んでいた。

### 介護保険における福祉用具供給の比較

介護保険では要介護認定により給付上限額が決まっており、サービスを受けるにあたり利用者の自己負担がある。ケアマネージャーは人海戦術のホームヘルプサービスを基本にケアプランを立てる。そうすると、自立的な生活に必要な福祉用具は後回しになり、利用者は自己負担することが難しくなる。要介護度と自立的な生活に必要な福祉用具の使用例は、

表：要介護度と自立的な生活に必要な福祉用具の関係

	認定の基準	理想的な福祉用具の使用例
要支援	ADL自立 入浴一部介助	屋外用の歩行器 (4輪タイプ)
要介護1	歩行不安定 排泄入浴一部介助	歩行器、手すり、屋外用の車いす、電動車いす
要介護2	立ち上がり介助 排泄入浴全介助	ベッド、手すり(トイレ、浴室玄関) シャワー椅子、車いす(クッション) 多点杖
要介護3	歩行不能 衣服着脱介助	屋内用車いす(褥瘡予防クッション)、 屋外用車いす、ポータブルトイレ、ベッド
要介護4	寝たきり状態 食事一部介助	特殊尿器、ポータブルトイレ、ベッド、 リフト、エアマット、座位保持機能付き車いす
要介護5	重度の 寝たきり状態	特殊尿器、エアマット、ベッド、 リフト、座位保持機能付き車いす

介護保険の一般的な在宅サービス標準例とは大きく異なることがわかる(表)。ノルウェーでは使用例に挙げた複数の福祉用具の使用は当然であり、ヘルパーが来た時だけ、活動ができるのは自立的な生活とは言えない。車いすレンタルを例にとると要介護度1の利用者は屋外移動を電動車いすにすることで買い物や社会活動が自立できることになる。また、要介護度4、5レベルの身体機能は介護保険施行以前には、身体障害者手帳によるオーダーメイドの車いすを給付されていた。介護保険では既製品の車いすでの対応が基本である

が、モジュラー車いすを導入することで適合性を高めることが可能である。問題は選定・適合を行う機関が介護保険にはないことである。福祉用具供給で特に重要なことは、ノルウェーでは福祉用具の選定や調整に通常の日用品と比較して多くの手間を必要とする流通は、すべて公的機関が行っており、その経費がほとんど含まれていないことである。介護保険においても福祉用具の供給について直接関与できる市区町村レベルでの公的機関が必要となる。また、福祉用具が有効活用されるためには、福祉用具の高度な選定・適合ができるテクニカル・エイド・センターと人材育成がカギである。

メモ・モジュラー(modular)車いすとは車いすの各部品を單元化しておき、これらの部品を目的によって選択し組み立てられるものをいう。一般的にアームレストの着脱、フットレストのスイングアウェイ等がワンタッチで可能なタイプが標準である。また、高機能なモジュラー車いすは座位保持に、いす機能の調整、操作性に駆動機能の調整ができ、耐久性は一〇年以上のものが多くある。